

「新神戸 布引周辺コース」

建築士の案内でまち歩きし、建築への理解を深めていただくことを目的とした毎年恒例の市民参加建築たうんウォッチング。今年度は、平成26年11月8日（土）午後、中央区東部から新神戸・布引の山麓地域に点在する優れた建築物と街並み、土木遺産などを見てまわりました。

暦の上では前日が立冬という日。雨天決行としながらも、今回は、布引の滝までの山道を歩くことから天候が気になっていましたが、当日は穏やかなまち歩き日和となりました。また募集定員の30名を超える人が参加され、活気あふれるイベントになりました。その様子をご紹介します。

13時10分過ぎ、新神戸OPA前を出発。

■ 神戸市立雲中小学校レンガ塀

雲中小学校は、前身が旧葺合区で最初の小学校となった熊内学校であることから、このあたりの学校教育を語る上で欠かせない存在となっています。

明治36年以降に雲中尋常高等小学校が現校地に移転し、大正3年の校舎増築時にレンガ塀が造られました。

校舎は、焼失・建替えにより現存していませんが、このレンガ塀は、一部手が加えられているものの、当時の姿を残しています。

講師から、レンガ塀の積み方の違いの説明があり、造詣を深めた方もおられました。



■ 日本基督教団神戸東部教会



大正11年に建てられたプロテスタント派教会。当初は煉瓦造りでしたが、戦災で焼失。昭和23年に再建されたトンガリ屋根と白壁が印象的な木造教会堂です。

中に入って、牧師様に教会の創設についてお話しいただきました。

この建物は、関西学院大学院長のニュートンの尽力により建てられたもので、アメリカの教会から戦災復興用として届けられた資材を使用し、暁組設計の約6パターンのうちの1つを採用しているそうです。

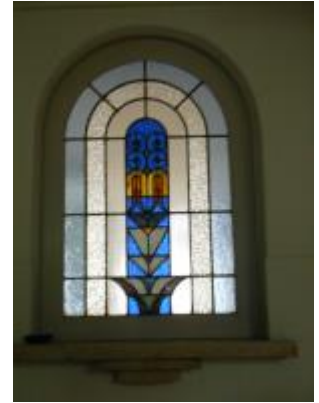
阪神大震災前には、同様の形状をした戦災復興プランによる教会がいくつか存在していましたが、現在、阪神間ではここを残すのみとなりました。

ドアノブやスチール製の窓など、今では珍しいパーツに興味深く見る参加者も多くおられました。



■昭生病院付属診療所 昭和2年5月竣工 設計:橋本勉建築事務所 施工:森本組

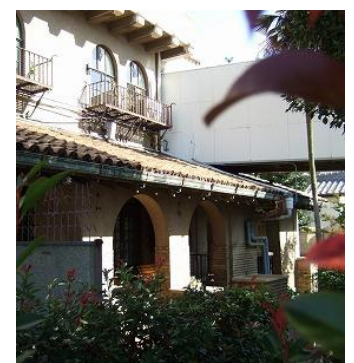
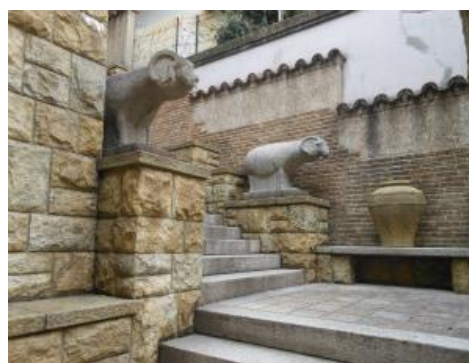
病院が設立された昭和4年は、阪神間モダニズムといわれた時代であり、西洋文化の影響を受けたモダン住宅や実験住宅が建つ高級住宅街が形成され、この地域には医院や病院も多く建てられました。その病院の一つである昭生病院は、日本で最初の循環器専門病院として設立され、昭和58年に灘区へ移転するまでこの地で開業していました。現在は付属診療所となっています。



厚みのある壁や装飾には、この時代特有の重厚感が表れています。特に窓廻りの特注大判タイルは圧巻であり、皆様興味深く見入っていました。

内部は、玄関の大理石の細工やステンドグラス・階段手摺の意匠など当初の状態が残っており、見所が多く、見せていただけて本当によかったと思いました。

■春日野会病院北館（旧池長孟邸） 昭和3年竣工 設計:小川安一郎（住友営繕部） 施工:藤木工務店



当初は、資産家であり美術品蒐集家であった池長孟の自邸として建てられました。スパニッシュ調ですが、連続アーチ開口を持つベランダや铸铁製窓柵のあるアーチ窓、桁で持ち出されたバルコニーは陰影深く、玄関アプローチの石の羊像とあいまってエキゾチックな雰囲気を出しています。この建物は、池長美術館構想へとつながるものであり、このころの池長氏の心境の変化を表すと共に、近代建築を語る上で欠かせない住友営繕部の設計という点でも貴重であると思われます。

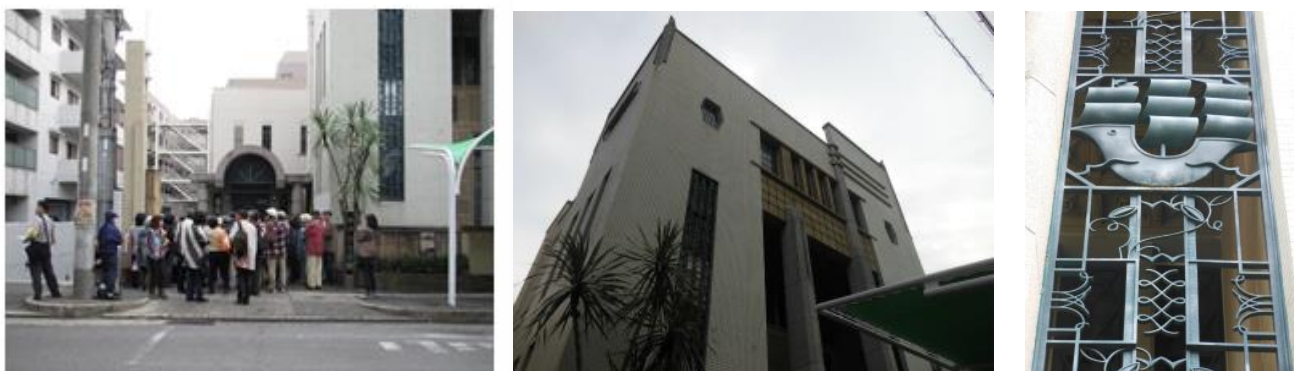
現在は病院として使用されていますが、建て替え計画があり、残念ながら年内には全面撤去されてしまいます。

■神戸市文書館（旧南蛮美術館） 昭和13年竣工 設計:小川安一郎(住友営繕部) 施工:藤木工務店

南蛮美術に造詣の深い池長孟のコレクションを収蔵する個人美術館として建設されました。

昭和15年4月より池長美術館として開館。その後昭和26年に神戸市に委譲し、市立神戸美術館と改称。池長氏の没後、市立南蛮美術館として公開されてきましたが、昭和57年、神戸市立博物館開館に伴い収蔵品を移設。建物は平成元年6月より神戸市文書館として公開され、現在に至りま

す。濃厚な印象の春日野会病院とうってかわって、こちらは、白っぽい箱形の潇洒な建物という印象を受けました。しかしながら、正面の玄関ドアや、南蛮船をかたどった玄関脇のグリルなど、アールデコ特有の重厚な細工が見受けられ、皆様感銘を受けた様子でした。



この後、新幹線跨線橋、熊内八幡宮を經由して徳光院へ。

■ 徳光院多宝塔 明治39年(多宝塔は室町後期建立を移築)

徳光院は、上記創設の臨済宗天龍寺派の寺院。開基は、川崎造船社主川崎正蔵氏です。



兵庫県最古といわれる室町時代の多宝塔は国の重要文化財に指定されています。2度移築されており、昭和13年の解体移築中に阪神大水害の被害を受け、保存中の部材の一部が流出したため後補材が多く、亀腹もコンクリート製です。一辺が2間(約3.6m)程度と小塔で、飾りも少ない簡素なものですが、木鼻などの細部の手法に見るべきものがあり、全体的なバランスも整っていること、そして、前述の水害の痕跡による歴史性など、大変重要な文化財であるといえます。

■ 川崎正蔵氏銅像跡

川崎正蔵氏は、明治初期に農商務省の兵庫造船所を借用し、その後払い下げを受けて川崎造船所を発足。明治後期に始まった生田川尻東海面埋立てに伴って、川崎造船所製鉄工場(川崎製鉄)が操業を開始するなど、この土地の造成や工業の発展を語る上で欠かせない人物の一人です。景勝布引の滝に近い高台に本邸宅・茶亭・庭園を構え、菩提寺として徳光院を建立しました。

銅像は、徳光院の山門の南側、砂子山の山腹にあり、川崎造船所を見つめていたそうです。その後、像は戦争中の金属供出で国に献納され、



現在は神殿様の壮大な台座を残すのみとなりました。

■ 布引の滝・布引五本松ダム

布引の滝は、雄滝・雌滝・夫婦滝・鼓ヶ滝の4つの滝の総称。雄滝は、華厳の滝、那智の滝と並ぶ日本三大神滝と呼ばれています。

布引五本松ダムは、日本で最初（明治33年）の重力式コンクリートダム。近代化遺産「布引水源地水道施設」の一部として国の重要文化財に指定され、厚生労働省の「近代水道百選」の一つでもあり、山麓の優れた景観要素となっています。型枠用の石積をそのまま残した外壁や、ダム上部の古典洋式の歯飾り、その他ドーム状石貼り取水施設などを興味深く見学しました。



■ 砂子橋（いさご橋）

新神戸駅から布引の滝に向かう参道にかかる橋。雌滝と鼓ヶ滝で取水した水を、奥平野及び北野浄水場に送る水道橋として設けられました。

橋には、直径約20cmと60cmの水道管が通っています。昭和51年に高欄の上部に市章付の手摺がかさ上げされ、現在は道路施設として位置づけられています。

文明開化の証を今に伝える貴重な文化遺産であることを知っていただくため、煉瓦・アーチといった当時先進の西洋建築の特徴を備えた重厚な橋の造りを見ていただきました。



今回は、住宅地から寺院、景勝地を巡るという少しハードな内容となりましたが、けが人もなく無事終えることができました。良い建物とはどのようなものか、また、街並みを構成する建物や塀、自然素材の取り入れ方等を学び、自然空間との調和を体験いただいたことで、個々の生活の場や暮らしに生かしていけるヒントになったのではないのでしょうか。

【ウォッチング後のアンケート】

- ・ 坂道はつらかったですが、楽しかったです
- ・ レンガの種類、その他自然の物の良さ等がわかりました。
- ・ 説明があるので、普段見ている街並みも詳しくわかって、大変良かった。
- ・ 行ったことがある所も説明でより深く理解でき、楽しかった。

その他にも多くの感想をいただきました。